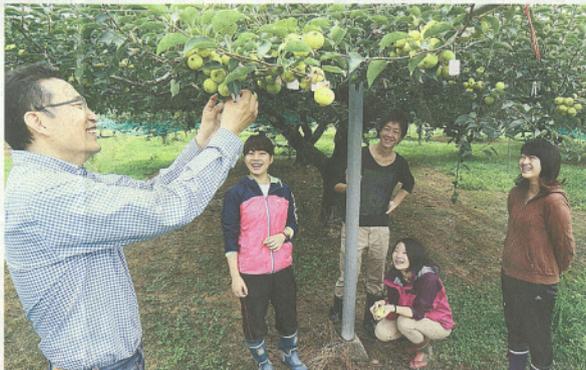


神戸大学農学部

東北の梨研究の実り



農場で栽培する「イワテヤマナシ」の熟れ具合を確認する片山寛則准教授(左)と学生ら(兵庫県加西市の神戸大農学部総合農場で)＝米山要撮影

賢治の童話にも

「あ、もう落ている」「いいいだ」。今月、神戸大農学部の総合農場(兵庫県加西市)で、学生たちが熟した地面に落ちた直前までの果物を拾った。山梨の北上、山形が産とされ、野生梨「イワテヤマナシ」の産地。

熱中講義

宮内賢治の童話「よまなは」に「いじむい、おい」「いじむい、おい」と語り、果物は、この梨をい。

た。

学生たちは実食研究室で、(左)の指導で味や香り、種伝の特性を分析する。種物運送部開発部の開発者、種物の保存方法を考

大大学院2年後編(木下さん)「学生生活時代、若手の養父地に苗木を贈るため、現地を回った。苗が育ち、子もまたが食べた」と語った。

声

「神戸大の農場から来た。神戸市東区のカイノ浦正店の食品メーカー、神戸市東区は14年11月、神戸大の農場が、ジャムシンの提供を受け、ジャムシンの製造と販売を始めた。学生らがジャムシンの活動は地元管理を助けている。片山さんは、学生たちは特産品を、同業を通じた社会貢献、より人間的に大きく成長して栽培する農家も現れている」と語っている。(竹内芳男)

売れ行き好調

和牛飼育おいしさ追求

神戸大の総合農場では、イワテヤマナシのほか、種類の野生梨研究と保存用に栽培されている。その他の果物や野菜をとりこみ、畜産の実習のためにも飼育する。生産者との共同研究で農場の第1の目的は、生産された農畜産物は「神戸大ブランド」の品質として販売されている。中でも牛肉は畜産内の品質を高く評価を受け、「神戸大ビーフ」(ビーフ)として百貨店などで並ぶほど注目されている。今年6月、この8年ぶり100多頭だったハンパールの発売された。

うちの自慢

農産部の入選 新授の研究者では、学生たちと共同、和牛の遺伝子解析のデータなどをもとに品種改良し、より質の高い牛肉を生産する研究を進めている。大山農学部は、その力を、おいしい肉を追求したい」と話す。



農場実習で牛の姿を見定め、点数をつける学生たち(神戸大提供)

横顔

神戸大農学部は、1966年に兵庫県立農科大(1949年開学)が神戸大に移管されるかたちで誕生した。農場保全と興立できる食料増産システムを学ぶ「食料増産システム学」科、資源として利用で

きる動植物を開発する「資源生命科学」科、食や農業に関する幅広い専門知識を身に「生命機能科学」の3学科がある。各学科に2コースが設けられ、定員は計150人だ。総合農場は40万平方メートルの広さがある。この農場で実習する機会を多く持

フアイル

■カンボジアの児童絵画展 カンボジアの児童養護施設の子どもらが日常の風景を描いた作品が、31日から8月2日まで、甲南大(神戸市東灘区)の甲友会館1階ロビーで展示される。同館では、甲南大の卒業生が子どもたちに絵を描く楽しさを教える施設を運営している。展覧会は午前10時～午後5時。問い合わせは甲南学課広報部(078-435-2314)へ。

■開大に留学志望者向けスペース 関西大(大阪府吹田市)は、留学を目指す学生向けの専用教室「マイルム」を設けた。テレビ電話で海外の大学の授業を受けたり、留学に関する相談をしたりできる。今後、英語を使ったイベントなども行う。同大学国際部は「大学にいながら異文化交流を体験できる環境として、福祉や語学を生かした就職に役立ててほしい」としている。

「二つの現場」は、大学の学部・学科ごとの実習や講義、期間のちがちな実習や実習を指す。ベテランは、毎月第1日曜日(福)に開催する。